

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念は『①優しく笑顔で②その人らしく③家庭的な雰囲気の中で 生活支援』を掲げ独自に作り上げたものになっている。</p>	<p>○</p> <p>現時点では、近隣に住宅街や商店街などがないため地域と密着した活動はまだ十分ではないが、運営推進会議で地域の代表の方に理解を深めて頂いているところであり、今後より一層地域の中に溶け込んでいけるよう努めていきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念実践のために職員は笑顔で接することやくつろげる雰囲気作りを特に注意して行っている。また、利用者の自己決定を尊重するようにしている。</p>	<p>○</p> <p>様々な事例が発生したり行事や活動を行う際や、朝礼(毎日開催)・全体会議(毎月開催)等の場で、管理者を含め職員全員が理念を実践できるよう話し合いや検討の場を設けている。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>理念は玄関に掲示しており家族には理解していただいているが、運営推進会議等で意図を説明しているが地域の人々には浸透していない。</p>	<p>○</p> <p>今後より一層の交流に場を増やし、外部の方の受入やホーム入居者の地域行事への参加を充実させ、地域の人々に理解してもらえよう働きかけていきたい。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>ホームが老健やケアハウス等の敷地内に併設されていることもあり、散歩の際に挨拶をする程度で、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的な付き合いはできていない。</p>	<p>○</p> <p>ビルの3・4階にあり、季節感に呉ある草花や飾り付け等今後も工夫し、地域の人々に理解してもらえよう働きかけていきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の一員として地域活動に参加することはほとんどできていないが、隔月1回運営推進会議を開催し、市担当者・区長・区評議員・包括支援センター担当者・入居者家族に参加して頂いている。</p>	<p>○</p> <p>利用者が老人会などに気軽に参加できるよう、まずは職員が地域の一員としての意識を持ち、地元の人々との交流を図っていきたい。</p>

福岡県 グループホーム 国分

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	○	<p>職員間での話し合いは行っていないが、介護相談や施設見学等は受入れており、運営推進会議などにおいても話し合っている。</p> <p>今後も相談があれば、常に役立てるよう活動したい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>全ての職員が理解している。また、評価結果を元に設備面や記録の整備等改善に取り組んでいるが計画的には行われていない。</p> <p>改善策には全職員が参加して「改善計画書」を作成し、全職員で計画的に行いたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	<p>会議には住民代表(区長・区評議委員)・市担当者・包括支援センター担当者に参加を依頼しており、前回会議で出された意見についてなど行ったことを報告している。前回の外部評価の結果は報告を行った。</p> <p>今回の自己評価以降の会議は開いていない。次回以降、自己評価表を配布し、当ホームの現状や取り組み内容に対する理解を深めて頂くよう取り組みたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	<p>運営推進会議には必ず参加して頂いているが、市担当者へ相談や報告する事例は発生しておらず、運営推進会議以外では行き来していない。</p> <p>市担当者へ個別に報告・相談する事例が発生した場合には、積極的にその機会を作りたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>権利擁護に関する制度を利用している方はいない。管理者、一部スタッフは制度を知っているが、特段パンフレット等の設置は行っていない。制度については一部希望があった家族に対し説明を行った。</p> <p>地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての勉強会などを開催し理解を深めたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	<p>注意、防止に努めている。</p> <p>当ホームで虐待やいじめ等の事例は発生していないが、職員が学ぶ機会を作りたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際十分な説明を行い、理解、納得を頂いている。</p>	<p>○</p> <p>今後も契約に関する説明には時間をかけ、納得頂くよう取り組んでいきたい。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>特別な機会は設けていないが、利用者全員に何うも特段の不満、苦情等の返答はない。ご家族が面会の際に意見や苦情を聞き取るよう心掛けている。</p>	<p>○</p> <p>意見や不満・苦情の訴えがあった際には、必ず職員間で話し合いを持ち、適切な対処が出来るよう今後とも取り組んでいきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時近況報告している。また、変化のあった時は電話で報告することもある。金銭管理については利用料請求書送付時に現金出納帳の写しを同封している。職員の異動等については報告できていない。</p>	<p>○</p> <p>書面での定期的な報告を行ってきたい。顔写真の掲示・移動は行っているが、スタッフの異動については家族に報告しておらず、今後検討したい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱の設置。また、年一回家族会を行っている。そこで上がった意見についてはできる限り反映させている。</p>	<p>○</p> <p>不満や苦情などを言いやすい環境にするため、無記名アンケート等の実施を検討したい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一回の会議で意見や提案は聞いている。また、職員の意見や提案を聞く機会を設けており、業務に反映させている。</p>	<p>○</p> <p>今後も毎月全体会議を開催し、職員の意見を汲み取る機会を持つ。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>入退所や介護相談あるいはホームの行事など職員の勤務・配置には柔軟に取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>今後も必要に応じ、職員配置には柔軟に対処したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職があった際それぞれのユニットの質を均等にするため異動を行っている。しかし普段からすべての職員がどちらのユニットにも入る勤務体制になっているため、異動になった際の利用者へのダメージは少ない。</p>	○	<p>職員の退職を原因とした異動が多いため、職員が働きやすいよう勤務条件の改善に取り組み、入居者への影響を最小限に抑えるようにしたい。</p>
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19</p> <p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>性別や年齢などを理由に採用対象外にはしていない。また職員には得意能力を發揮してもらっている。社会参加や自己実現の権利に関し、勤務(休日)の希望にはできる限り応じている。</p>	○	<p>職員採用について、介護職員としてふさわしい人であれば採用制限は一切行うことは無い。また職員の社会参加や自己実現の機会を持てるよう配慮していきたい。</p>
<p>20</p> <p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>日々の現場で利用者の人権を尊重することを話している。気になる行動があった際は職員本人を交え注意・検討の場を設けるようにしている。</p>	○	<p>人権に関する研修や勉強会等を特に持ったことは無いため、今後そのような機会を持つよう努めたい。</p>
<p>21</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>理解はしているが積極的に取り組んでいるとはいえない。管理者やリーダーが現場での体験について助言したりしている。</p>	○	<p>研修会や勉強会の開催は思うようにできていないのが現状である。法人の内外を問わず研修や勉強会があり、派遣できる条件が整えば是非参加させたい。</p>
<p>22</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者との交流、連携の必要性は認識しているが、積極的には取り組んでいない。</p>	○	<p>機会があれば、同業者との交流については取り組んでいきたい。事業者の協議会や連絡会等への参加は現在のところ考えていない。</p>
<p>23</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>特に取り組んでいることは無いが、職員の悩みを聴いたり、アドバイスをしたりすることは常々行っている。また、職員同士で食事に行くなどは行っているようである。</p>	○	<p>職員の悩みの聴き取りや相談に応じることは今後も行っていく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各々スタッフの努力や実績、勤務状況は把握している。	○	各自が向上心を持って働けるよう努力したい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人から訴えなどがあった時その都度対応している。また、安心できる環境を作れるよう努力している。	○	すでに取り組んでいるが、家族構成や現在に至るまでの生活歴などの情報を提供していただき、それを元にどう接していくかなどの対応を検討する。
26 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族から積極的に聴き取りを行い、家族が安心できる環境をつくれるよう努力している。	○	家族の聴き取りを行い、困っていることや不安に感じていることなどの聞き取りを必ず行い、信頼関係を築けるよう努めている。
27 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームの利用につながらなくても、法人の内外を問わず必要と思われる他のサービスを紹介するよう努めている。	○	ホーム開設以来、本人・家族が本当に必要としているサービスを勧めるよう心がけている。
28 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一日体験利用の制度を設けたり、日中遊びに来て頂くなどの対応を行っており、導入には慎重に対応している。	○	本人・家族ともサービスの利用には慎重になるため、導入の時点で本人が職員やホームの雰囲気馴染めるよう配慮をしており、今後も継続していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	各々一つの家族として接している。例えば調理を一緒に行い、切り方や下ごしらえの仕方等を教えてもらったり、誕生会等の行事の際に生け花を生けて頂く等、入居者が主役になれるよう努めている。	○	職員が一方的な介護を行うことが無いよう配慮し、入居者から学んだり、支え合える関係を築けるよう心掛けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>職員は利用者家族の一員に加えていただくつもりで介護にあたっている。利用者の家族とも家族のように共に喜んだり、悲しんだりするよう努めている。</p>	<p>○</p> <p>支援に対する家族の要望を聞き、職員の考える内容とのすり合わせや、実際の介護にどう反映していくかを定める。</p>
31	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>本人と家族の間に入り支援するなど、よりよい関係が築けるよう支援している。</p>	<p>○</p> <p>面会の際に、本人の最近の状態について職員と家族の連絡・報告を行い、共通の意識を持ち、チームとして本人の介護に取り組むよう心掛けている。</p>
32	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている</p>	<p>利用者が書いた葉書を出したり、電話を取り次いだりしている。積極的な支援はできていない。</p>	<p>○</p> <p>家族や友人・知人から電話や面会は自由であるが、馴染みの場所への外出や集まりなどへの参加の個別対応には限界があり、十分には対応できていない。今後は、可能な限り対応できるよう配慮したい。</p>
33	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>孤立しないよう声かけ行い、交流を深めることができるよう支援している。</p>	<p>○</p> <p>全員が一律に活動して頂くのではなく、ある場面では全体で、ある場面では少人数・個別で、無理なく様々な活動が出来るよう援助を行っていきたい。</p>
34	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>併設の老健に移った利用者に会いに行ったり、退所した利用者の家族の相談にのったりしている。</p>	<p>○</p> <p>当ホームのサービス利用経験者はおも、相談があったがサービス利用に至らなかった方等についても、気軽に相談していただけるような関係を維持できるよう取り組んでいる。</p>
<p><b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>			
35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>各々の希望に沿うよう、毎月ケアカンファを開いて検討、努力しているものの、各個別の希望を全て把握しているとは言えず、今後も継続して取り組みたい。</p>	<p>○</p> <p>本人・家族からの聴き取りは行っているものの、生活歴や主だったもの以外の趣味嗜好などの聞き取りが不十分であることがある。入居後も本人や家族からの聞き取りを継続し、入居者一人ひとりの思いや意向の把握に努めたい。</p>

福岡県 グループホーム 国分

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活歴や生活環境・介護サービスの利用経過は本人・家族・担当ケアマネージャー等から情報を得ている。	○	本人・家族・担当ケアマネージャー等からの情報の聴き取りは今後も継続して行っていきたい。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各々その人らしく生活していただくために、具体的な課題・目標を設定している。ケアの方法など介護計画に記載。毎月会議を開いて記録に残している。また参加できない職員にはあらかじめ意見を聞いている。	○	介護計画がその人らしく表現できるよう努力していく。地域で暮らしている事が盛り込まれてなく、今後検討したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族との会話の中から課題を探り、介護計画に反映している。会議に参加できない職員からも情報や意見を聞いて話し合いに臨んでいる。	○	計画を作成する上で前提となる本人の生活歴や職歴・趣味嗜好といった基本情報・属性情報の収集が不十分な面がある。介護計画をより有効なものとするため、特にインテーク段階での情報収集を充実させたい。
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	フロア会議の際に見直しを行い、変化に応じた計画を新たに作成し、ご家族に承認頂いた上で、介護計画としている。	○	期間にこだわらず、必要であればいつでも話し合いをし、対応していくよう努めている。
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や気づきの出来事など経過記録に残して、スタッフ全員で情報を共有している。	○	ケース記録の内容を充実させ、計画の変更や見直しに活かせることができるものにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	可能な限り入居者本人や家族の要望には応じており、柔軟な支援が出来るよう努力している。	○	入居者本人や家族から要望が出た際には、可能な限り対応できるよう取り組んでいる。また気兼ねなく要望を出して頂けるような雰囲気作りや配慮が出来るよう、取り組んで行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>ホームや法人での行事の際、ボランティアの協力を得ることがあり、地域の小中学校の体験学習や介護専門学校・大学福祉科の生徒の実習受入等を行い、交流の場を持てるよう取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>今後も、実習や総合学習での学生の受入や地域のボランティアやサークル活動等への参加を積極的に行いたい。</p>
43	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>現在、入所者は他のサービス事業者のサービスは利用していない。他の施設や病院の利用が予定されている場合には、事前に話し合いを重ね、サービス利用に関する支援を行っている。</p>	<p>○</p> <p>入居時は、他のサービスの利用は想定していない。退所後、他の施設への入所や入院等が予定されている場合にはそのための支援は行いたい。</p>
44	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議への参加は常々お願いしているが、権利擁護や総合的・長期的なケアマネジメント等では協働したことは無い。</p>	<p>○</p> <p>今後必要に応じ、包括支援センターの協力を仰ぎたい。</p>
45	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>当ホームの協力医療機関を利用することが多いが、入所時にご家族や本人の同意を頂いている。場合により、家族や本人が希望する医療機関(あるいは以前からの掛かりつけ医)に受療することもある。</p>	<p>○</p> <p>協力医療機関への受診も本人の持病・病状に合わせ、専門医の出勤日に受診するなど配慮している。またか本人・家族から要望がある際には、従来受診していた医療機関にかかるように配慮するなどの対応を行っている。</p>
46	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>協力医療機関の医師にも認知症に対する理解はして頂いており、必ず職員が同行し、診断や治療の説明・相談を行っている。また、一部入居者については、月2回程度専門医(精神科医師)の往診を頂いている。</p>	<p>○</p> <p>受診に際しては職員が必ず同行し、普段のバイタルの記録や日常の状態・行動・訴えなどを説明し、適切な診断を行ってもらえるよう取り組んでいる。また受診結果や指示については入居者個別のファイルを作成して情報の共有を行い、職員全員が対応できるよう取り組んでいる。</p>
47	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>現在、看護師の職員配置はしておらず、契約もしていない。必要に応じ、併設老健の看護師に相談や協力を仰ぐことはあるが、基本的にはかかり付け病院の医師の指示を頂くようにしている。</p>	<p>○</p> <p>現在のところ、看護師の配置や契約は計画していない。</p>



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p> <p>入居者が入院した際には、衣料の補充・面会・家族との連絡・医師からの状態説明を受けるなどの対応を行い、本人・家族が安心して入院し治療に専念できるよう支援を行っている。</p>	○	<p>協力医療機関が入院設備を持っているため、医療機関職員と連絡をとり入院中の状態の把握が可能で、早期に退院できる体制をとっている。</p>
49	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p> <p>入居時に重度化した場合は、医療機関や法人内老健や特養への入所に移行する旨を、入所時にご家族には説明しており、了承頂いている。</p>	○	<p>当ホームは医療連携加算を取る体制をとっていない。入居者の重度化が進んだ場合、医療機関入院や法人内の老健・特養への入所へ移行する旨を入居前に家族に説明し、了承して頂いている。</p>
50	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p> <p>当ホームでは終末期での対応を想定していないため、医療機関への入院や老健・特養への入所に移行する説明を行っている。対象となる入居者がある場合には、時間をかけ家族へ状況の説明を行い、移動が予定されるの施設の職員と連携を図りスムーズな移動が行えるよう支援している。</p>	○	<p>当ホームでは終末期ケアを想定していない。身体・精神状態の重度化や週末期の対応は、医療機関への入院や老健・特養への入所という形で対応している。</p>
51	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p> <p>入居の際は、事前に顔合わせを行ったり、ホームに来て頂くなどの方法をとっている。退所の際は(入院など緊急な場合などを除く)、移動先の職員や家族と情報交換を行い、環境変化のダメージが最小化するよう努めている。</p>	○	<p>入退所の際は、家族・職員間や施設職員間の情報交換を密にして、本人のリロケーションダメージを極力抑えられるよう取り組みたい。</p>
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
52	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p> <p>言葉かけや対応等は慎重に行っており、プライドを損ねるような対応は慎んでいる。記録についても、家族への公開を念頭に配慮した記述を心掛けている。</p>	○	<p>徘徊や転倒の危険性が高いなど、常時見守りが必要な入居者の在籍が複数あるため、事務室などで申し送り等を行うことが出来ない。短時間であっても利用者がいらっやらないところで申し送りを行いたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	各々の体調や機嫌に応じて、その日のスケジュールを立て声かけはするが、基本的に本人が希望しないことはしない。	○	あくまで本人の意思を尊重し、自己決定し納得しながら暮らせるよう援助していきたい。
54 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	余暇活動への参加を促したり、何気ない雑談から仲間に入れる雰囲気作りをする。おおむねできている。	○	声かけ・誘導などは行うが、可能な限り本人の意思を尊重し、希望に沿った生活が送れるよう支援していきたい。
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
55 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ほとんどの方は移動美容室を利用しているが、本人の希望でカラーやパーマ等の対応も行ってもらっている。また行き付けの美容室を利用したいとの希望がされる方もいらっしゃるため、ご家族の協力を仰ぎ、外出・利用して頂いている。	○	理・美容を利用する際には必ず本人に希望を言って頂き、業者にも可能な限りその意向に沿った対応をやって頂くよう、お願いしている。
56 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買物・調理・盛付け・配膳・下膳・食器洗い等それぞれの能力に合せた作業への参加を支援しているが、献立作りに関しては、参加・協力を促すも反応なく取り組めていない。	○	日ごろから料理本など目を通して頂いて興味を持って頂き、一緒に献立が立てられるよう支援を行いたい。
57 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在タバコやお酒をのむ方はいない。飲み物に関しては好みを聞いている。また、品目によっては、お腹がゆるくなったり腹痛を起こしやすくなるなど敏感な方もいらっしゃるため、その日の体調などを考慮し、職員が対応している。	○	嗜好品については、可能な限り自宅に近い形で楽しめるよう取り組んでいきたい。
58 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失敗が多い方については排泄チェック表を作り、トイレ誘導を行っている。リハビリパンツや尿取りパッド・オムツ等の使用は最小限で行うよう取り組んでいる。	○	排泄に問題があるからといって、安易にオムツやリハビリパンツ・尿取りパッドを使用することが無い様、排泄チェックやトイレ誘導・安心パンツ使用を行っていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴時間帯や回数はおおむね決まっている。入る順番や所要時間は本人の希望に沿って対応している。便失禁時のシャワー浴は時間帯にかかわらず実施している。</p>	<p>○</p> <p>夜間入浴に取り組むたいが、職員配置やリスクの面に対応できていない。</p>
60	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>夜間十分な睡眠がとれるよう、日中散歩をしたり、体を動かすよう支援している。</p>	<p>○</p> <p>日中の活動を支援しているが、改善されない方もいらっしゃる。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>危険のない範囲で家事全般が得意な方や意欲を持たれていて方をお願いしている。また、畑の草取りや水やりなどもしてもらっている。</p>	<p>○</p> <p>一部の人だけの趣味援助にとどまっており、今後は個々に応じた対応を行いたい。</p>
62	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭を所持することで不穏言動があるため、家族に了承を取り基本的に職員が管理する遥にしているが、一部入居者は小銭程度所持して頂いている。</p>	<p>○</p> <p>職員同伴の上で外出し、店頭で自ら金銭の使用を行う機会を増やすよう努力したい。</p>
63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>食材の買い物に同行してもらっている。散歩は畑や施設の周りで行っている。長距離の歩行が難しい方も玄関前で外気浴を実施している。</p>	<p>○</p> <p>今後も入居者の身体能力や体調を考慮しながら、少人数で散歩を行うなど、個別の対応に心掛けたい。</p>
64	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>バスハイクで花見や葡萄狩り・外食等に出かけている。日ごろは数名ずつのドライブ程度にとどまっている。</p>	<p>○</p> <p>個別に外出できる機会を増やしたい。</p>

福岡県 グループホーム 国分

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内にポストを用意したり、家族友人等との電話連絡が行えるよう支援している。	○	今後も今まで通りの支援を行いたい。
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	夜間以外いつでも気軽に来て、本人の居室や共有スペースでゆっくり過ごしてもらっている。		今後も今まで通りの支援を行いたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては全職員が理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	今後も今まで通りの支援を行いたい。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関に鍵はかけていないが、ホームが建物の3階に位置しており屋外へ出る際には危険が伴うため、エレベーターをロックしており、窓にはセンサーをつけている。	○	日中窓のセンサーは解除しており、ベランダへの出入りは特に制限を設けないようにしている〔一部転倒の危険性が極めて高い入居者は除く〕。エレベーターも時間帯によるロック解除等少しでも鍵をかけない時間が増えるよう取り組んでいきたい。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	フロアに出ている方はもちろん、自室にいる方についても気にかけて様子を把握、配慮している。	○	今後も今まで通りの支援を行いたい。
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ナイフ、かみそり等は預かっている。はさみも一部入居者の分は預かっている。	○	今後も今まで通りの支援を行いたい。

福岡県 グループホーム 国分

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	<p>今後勉強会を開催したり、外部での研修等に参加して職員全員で事故防止に関する知識習得に取り組みたい。</p>
72	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	<p>急変や事故の際、隣接老健の看護師の応援が体制をとっているが、今後応急手当や初期対応の訓練を行っていききたい。</p>
73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	<p>年2回の避難訓練は今後も継続していく。</p>
74	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	○	<p>今後も今まで通りの対応を行いたい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	○	<p>今後も今まで通りの対応を行いたい。</p>
76	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	○	<p>全職員が服用している薬の効能や目的等を把握できるようにし、服薬の支援や症状の変化の確認については今まで通り対応していききたい。</p>

福岡県 グループホーム 国分

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	○	<p>今後も今まで通りの対応を行いたい。</p>
78	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	○	<p>義歯を使用していない方は声かけだけにとどまっている。今後各居室での見守りや声かけを行い確実な口腔ケアを実施したい。</p>
79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	○	<p>食事量については把握、記録しているが水運量については大方把握しているものの十分とはいえない。</p>
80	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	○	<p>今後も今まで通りの対応を行いたい。</p>
81	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	○	<p>今後も今まで通りの対応を行いたい。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
82	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	○	<p>玄関や外観・周囲の雰囲気は如何ともし難いが、ホーム内の雰囲気作りには常に配慮していきたい。</p>

福岡県 グループホーム 国分

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感を出すために観葉植物を置いたり、絵を飾ったりしている。また、居間は季節感が出るような飾り付けになるよう心がけている。	○	建物自体が施設的な印象が強い為、ホーム内の家庭的な雰囲気作りには配慮している。今後も入居者が居心地よく暮らせるよう工夫していきたい。
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いフロアの中にソファやベンチなどがあり、思い思いに過ごせるようになっている。	○	スペースは十分に確保しており、ホーム内の空間も落ち着いたものになっている。各入居者がその時の状況に応じて過ごせるよう居場所は保っている。
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々使い慣れたものなどを置いている。	○	今後も今まで通りの対応を行いたい。
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝や掃除の時に換気を行っている。温度調節は各居室に温度計を置き、利用者に応じてエアコンの温度設定を変えている。	○	不快な臭気がないよう配慮したい。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部分の手すりなどはもちろん、居室内も家具の配置などに工夫して自立した生活支援を心がけている。	○	今後も今まで通りの対応を行いたい。
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室が分からない方やトイレの案内表示は分かりやすいように大きく表示している。また、タンスのどこに入っているか分かるように引き出しに「下着」「タオル」などと書いて貼っている方もいらっしゃる。	○	今後も今まで通りの対応を行いたい。
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにはプランターに花や野菜が植えてあり、観賞したり水やりをしたりできるようになっている。また畑には作物等を植え、成長及び収穫の喜びを味わっている。	○	今後も今まで通りの対応を行いたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・ 基準以上の十分なスペースを確保しており、圧迫感がないゆったりとした住環境の中で過して頂いている。
- ・ 社会福祉法人傘下にあるため、認知症の進行やADLの低下に伴い、入居者の状態にあった施設{同法人傘下の介護老人保健施設(老健)や介護老人福祉施設(特養)}への利用移行をスムーズに行うことができる。
- ・ 通常、入浴・食事以外の日中のスケジュールは特に立てていないため、その日の入居者の状況や気分・機嫌を見ながらゆったりとした一日の過ごし方を組み立てている。
- ・ 立地条件もあり日常のこまめな敷地外への外出は出来ないが、バスハイクや外食・ドライブその他時候に合せた外出行事を可能な限り企画している。
- ・ 家族的な介護(支援)を常に実践できるよう取り組んでおり、ご家族様との連絡・連携を心掛けている。